令和５年度

学校（自己）評価報告書

岩見沢市立上幌向中学校

□　学校の概要

推進校	岩見沢市立上幌向中学校							
校長名	髙田　恭介				教職員数		１７名	
学　年	１　年	２　年	３　年	４　年	５　年	６　年	特別支援	合　計
学級数	１	１	１				２	５
児童数	２１	１３	８				９	５１
住　所	岩見沢市上幌向北１条４丁目７４５番地８							
電　話	０１２６－２６－２９６２							
ＦＡＸ	０１２６－２６－２０８５							
ＵＲＬ	https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/kosodate_kyoiku/gakko_kyoiku/chugakko/2/6933.html							
e-mail	kamihoromuic@edu.hamanasu.com							

Ⅰ　学校教育目標

夢と希望に充ちた１５の春をめざして

Ⅱ　中期及び単年度の具体的目標

１　授業づくり

（１）「社会に開かれた」教育課程の実現と改善サイクルの確立。

（２）学ぶ力の定着～話すスキル・聞くスキル・書くスキル・考えるスキル・対話するスキルの育成。

（３）授業改革～「子どもと創る授業」による主体的･対話的で深い学びの実践。

（４）道徳科授業の充実～推進体制等の充実。

２　仲間づくり

（１）極的生徒指導の充実～自尊感情や自己有用感の育成。

（２）生徒会活動の充実～生徒自身が主体的によりよい学校にしようとする態度の育成。

（３）生徒の主体性を重視した活動の充実～「ピア・サポート」による「傾聴・受容・共感」の学級風土の醸成。

（４）人間関係の再構築～粘り強く他者と関わることができる教育活動の実践。

３　学校づくり

（１）客観的評価からの課題把握～OODA ループと RG-PDCA サイクルの併存。

（２）学び方･教え方･働き方を一体で変える ICT 活用の充実。

（３）企画委員会の充実。

（４）児童生徒、教員の交流を図り９年間の学びを展開する小中のスムーズな接続～小中が一貫した取組。（研究主題や学校行事の連携・総合的な学習のつながり）

（５）積極的な情報発信～家庭・地域と生徒の学びを共有する。

（６）コミュニティ・エリア機能の拡充～地域の人的･物的資源の活用。

Ⅲ　各種具体的な計画

１　子どもと創る授業

（１）適切な課題を設定し、自立的に学び続ける生徒の育成。

（２）ラーニングピラミッドを意識した単元計画（教師と生徒の共有）の作成。

（３）話し方・聞き方・話し合い方のスキルアップ。

（４）「振り返り」を充実させた学びの連続。

（５）小規模校の特性を活かした指導の個別化と学習の個性化の実現。

２　地域とともに歩む学校

（１）各種行事への協力要請。

（２）地域行事への積極的な職員参加。

（３）地域における人的・物的資源の発掘。

３　育ちと学びの支援

（１）「しっとり」「あったか」雰囲気の醸成。

（２）「いいとこみつけ」を活用し、自尊感情や自己有用感を育む学校・学年・学級づくり。

（３）「ピア・サポート」による「傾聴・受容・共感」の風土醸成と浸透。

（４）Hyper-QU テストの年２回実施と分析による指導改善。

（５）家庭学習に取り組みたくなる日常の授業実践。

（６）「家庭学習の手引き」に基づく家庭での学習習慣の定着。

４　子どもを徹底して大切にする教育

（１）危機管理マニュアルの見直しと改善。

（２）各種通信、ブログ記載のためのプライバシーポリシーの作成。

（３）情報セキュリティ対応の充実。

（４）新たな課題（ＬＧＢＴなど）への対応。

（５）ユニバーサルデザインの取組。

５　その他

（１）自己肯定感を高める道徳科授業の実践。

（２）体力の向上と運動の習慣化。

（３）教育課程の適正管理と教育活動の精選による働き方改革の推進。

（４）小中接続による学力向上の取組の確実な実行。

Ⅳ　各種評価結果

令和５年度　学校評価アンケート集計結果

No	設　　問	保護者	生徒	教師	平均値	平均からの評価
1	学校は説明がわかりやすく生徒が主体的に活動する授業づくりをしている。	3.6	3.6	3.5	3.5	良好
2	学校はタブレットの活用や放課後学習の実施など学力向上のための取組をしている。	3.6	3.9	3.7	3.7	良好
3	生徒は授業での学習内容を活かし主体的に家庭学習に取り組んでいる。	2.9	3.1	3.1	3.1	要検討
4	学校は生徒の学習状況を適切に評価している。	3.7	3.7	3.4	3.6	良好
5	あなたは（お子さんは・生徒は）学校に通うことが楽しいと感じている。	3.6	3.4	3.3	3.4	良好
6	学級は生徒一人一人が受け入れられる居心地のよい場所になっている。	3.6	3.6	3.4	3.5	良好
7	生徒は明るく元気にあいさつしている。	3.2	3.2	2.7	3.0	要検討
8	学校はアンケートや相談活動など、悩み事への対応やいじめのない学校づくりをしている。	3.6	3.7	3.6	3.6	良好
9	学校は授業・休み時間・部活動などで体力向上のための指導や取組をしている。	3.5	3.6	3.3	3.4	良好
10	学校は交通事故防止・災害対応・感染症対策など安全についての指導や取組をしている。	3.7	3.7	3.7	3.7	良好
11	学校は校舎をきれいに整え設備の管理を適切に行っている。	3.8	3.7	3.5	3.7	良好
12	学校は食事・睡眠・病気の予防など健康管理について指導している。	3.6	3.7	3.5	3.6	良好
13	学校は将来の夢や希望について考えたり検定など自分を高めるための取組をしている。	3.6	3.7	3.5	3.6	良好
14	学校は道徳科やピア・サポートの授業など自分や相手を大切にする心の育成に取り組んでいる。	3.7	3.7	3.5	3.6	良好
15	学校は学校だより・学級通信・ブログなどで保護者や地域に学校の様子を伝えている。	3.8	3.7	3.5	3.7	良好
16	学校は保護者や地域と協力して教育活動に取り組んでいる。	3.7	3.7	3.4	3.6	良好

令和５年度　学校関係者評価　集計結果（学校運営協議会）

	領域	評価項目	評価	評価	ご意見
1	学校経営	・新しいことに粘り強く挑戦する生徒の育成 ・子どもの成長を喜び合う教師集団づくり	3.80	良好	・①学校経営の項目は多岐にわたるが、その相乗効果はどうか　②教員等の残業、健康管理の実態はどうか　③心身とも健康体で良い結果が得られると思う※岩見沢市内の全体的なことを何かの機会に教えてほしい。 ・一番身近な大人で在り、大きな影響を与える立場にあることを念頭に。
2	学力向上	・子どもが主体となる授業づくり ・ICT機器の効果的な活用	3.80	良好	・話す、聞く、書く、考える、対話のスキルアップは学力向上の基本と思うので強く実践していただきたい（学校経営・学力向上に繋がる） ・PCを使用した発表、全員で役目を全うさせる指導に感銘しました
3	生徒指導	・自尊感情や自己有用感の育成 ・明るく元気なあいさつ	3.40	良好	・あまり中学生と接していないのでよくわからないが、挨拶は世に出たときには絶対必要なので、自然と出るような人間になってほしい。 ・恥ずかしさで元気にとはいきませんが、「こんにちは」等声をかけてくれるようになったと思います。 ・男子はシャイな年頃でもあり、自ら声が出ない子も見かけますが、地道に取り組んでください。
4	健康安全	・体力向上の取組の推進 ・感染症対策等の徹底	3.90	良好	・見ている限り、生徒同士で外での遊びは目にしない。勉強に集中して言うと思うので。（体力？パソコン等による視力障害が心配） ・子どもがサッカーしたいとなったとき、「学校でやればよくない？」ときくと、「つかえない」といわれたので、クラブチームがないときは、放課後使えるようにしてほしい。自分は札幌ですが、友達と約束して一回帰ってその後みんなで集まってサッカーをしたり自由でした。 ・自ら企画した体育祭がよかった。バトミントン部をさらに充実してほしい。 ・寒さ対策として、暖かい服装をさせてあげてほしいです。カイロだけでは寒さはしのげないと思います。 ・何より全員が楽しそうに体育祭に参加される工夫が見られました。
5	地域連携	・地域への情報発信 ・地域と協働した活動の実践	4.00	良好	・各家庭、町内会、掲示板等で情報提供をしているので、とても良いと思っている。 ・地域の人と共にゴミ拾いの参加はよいことと思う。地域の人と公助活動はよいことと思うので継続を。 ・地域を巻き込んだクリーン作戦をさらに前進していただきたい。 ・地域の皆さんへは、小中学校いずれも回覧してお知らせしてます。

●評価基準
A：適切　B：おおむね適切　C：あまり適切でない　D：適切でない

●評価判定基準（A＝4、B＝3、C＝2、D＝1として集計）
評価平均4.0：達成　評価平均3.25以上～4.0未満：良好　評価平均1.75以上～3.25未満：要検討　評価平均1.75未満：要対策

□各種評価結果についての考察

全体として評価の結果は良好であり、生徒・保護者・地域から本校の教育活動に一定の理解が示され、満足度が高いと推察する。特に、授業づくりにおけるＩＣＴの活用については、思考力・判断力を高めるためのツールとして生徒に定着し、授業参観などの機会を通じて保護者や地域の方にもその有用性を理解いただくことができた。

また、学校生活における心理的安全性の確保のために、ピア・サポートによる親和的な学級集団づくり、相談活動及び見守り活動の充実、生徒の自己有用感を高める「いいとこみつけ」などに取り組んだ結果、生徒にとって学校が居心地のよい場所となり、学校生活に関する質問項目が高評価になったと推察する。

一方、各種評価から学習と生活の両面において課題が明らかになった。学習面では「生徒の主体的な学び」が課題であり、学校と家庭の学びの連続性を確立させる必要がある。学校の教育目標である「夢と希望に充ちた１５の春」を実現させるためにも、連続性のある学びによって確かな学力を身につけさせなければならない。生活面では「積極的な挨拶」が課題である。地域の方からも「中学生の挨拶は元気がない」とのご指摘があり、挨拶が受け身になっているのが実態である。「他者との関わりの追求」という本校の経営方針にもあるとおり、生徒の自己実現のためにはコミュニケーション能力の育成は不可欠であり、生徒がその意義を理解することや、挨拶を大切にする意識を体験的に高めることが必要である。

Ｖ　学校関係者評価を受けての改善策等

１　学力向上

学力向上のためにカリキュラム・マネジメントによって授業及び学習活動の改善を図る。具体的には、生徒が「授業で取り組んだ課題を家庭でもやってみたい」と思える良質な学習課題の提供、授業でのつまずきをその日の中で解決する放課後学習の充実、ＩＣＴ機器を活用した個別最適な学びの提供について、数値等の具体的な目標を設定し、取組内容や達成率をショートスパンで検証して改善を図る。

２　心が通う挨拶の定着

挨拶は強制されるものではない各人の自発的な行為であるが、コミュニケーション能力育成の観点からも挨拶習慣の獲得が極めて望ましいと考える。そのためには多角的な視点での取り組みが必要であり、生徒会による全校協議と挨拶運動、教職員の示範による日常的な啓蒙活動、ＰＴＡや地域住民とのふれあいの機会の設定などを進めていく。